

平成28年度第1回恵庭市保健センター運営協議会会議記録

日 時：平成28年7月5日（月）18時～19時

場 所：保健センター1階機能訓練室

出 席：（委員） 貝嶋会長、神田副会長、廣田委員、村松委員、江川委員、高橋委員
中田委員、安達委員、大石委員、中岡委員
（市） 保健福祉部長、保健センター長、保健課長、健康スポーツ課長
庶務担当主査、健康診査担当主査、母子保健・食育担当主査
介護予防・精神保健担当主査、高齢者保健担当主査、健康推進担当主査
スタッフ

傍 聴：0名

1. 開会

保健課長

保健センターの新しい体制について

- ・健康スポーツ課が加わり、保健課と健康スポーツ課の二課となった
- ・恵庭市保健センター条例が改正され、条例第3条（3）（4）が追加された千歳保健所長の変更により築島委員の後任として廣田委員となった

2. 会長挨拶

貝嶋会長

事務局の紹介

3. 議事

会長の進行により、協議事項の議事が進められた。議事の内容は次のとおり

（1）平成27年度保健事業実施報告について

事務局より、担当主査によって説明、報告した。

【質問・意見】

A委員 フッ素塗布について、何か不具合やトラブル等があるか。

事務局 特にありません。

A委員 フッ素をしない理由はどのようなものがあるのか。
母親にフッ素に対しての誤解等があるのか。

事務局 誤解等は特にありません。
フッ素は前回から2ヶ月間隔を空けないため、フッ素率が100%になっていない。

B委員 救急車の適正利用や医療機関のコンビニ受診についての広報活動は引き続きしているのか。

事務局 広報、民間情報誌を通じて引き続き実施している。
また、夜間診療所に啓発文を掲示している。

B委員 救急車の利用状況が前年に比べて100件以上出動回数が増えており、恵庭市の高齢化率が進んでいるのが原因かとは思われる。これからも救急車の利用は増えると思われるため、適正利用をしなければ必要な人が利用できなくなるため、これからも広報活動をお願いしたい。

(2) 平成28年度保健事業の推進について

事務局より、担当主査によって説明、報告した。

【質問・意見】

C委員 B型肝炎の予防接種の勧奨はどのように考えているのか

事務局 標準的接種期間にて接種できない4月から7月生まれのお子さんには個別にはがきにて勧奨し、全体的には9月号広報や民間情報誌にて情報提供を考えています。

D委員 がん検診受診率を40%まで向上させるために具体的にはどのようなことをするのか。

事務局 女性の乳がんのニーズが非常に多く、受けたくても受けられない人が多数いるため、受診できる機会を拡大し、乳がん検診をメインにしつつ、併せて他のがん検診も受けってもらうことにより受診率向上を図る。

D委員 精密検査となり、がんが見つかった受診者が治療して完治したのか等、その後どうなったのかを事例を出しPRすることにより受診率の向上につながるのではないのか。

事務局 精密検査になった時点で平成27年度より結果が送付された1週間から10日くらいの間に連絡を入れるようにしている。
がん検診の事後のあり方についてまさに取り組んでいる段階である。

D委員 40%の目標に近づけるにはもう一工夫あればよい。

事務局 がん検診の向上につきましてはレディース検診を作るなど、決して検診受診率が上がらないことに対して何もしていないわけではないが目標に向かっていろいろ工夫したいと思う。

4. 閉会

以上